

# 平成28年度 事業報告

## 1. WAC事業（公益目的事業・その他事業1・その他事業2）

### \*WAC（ケア・エイジング・コミュニティ）事業：

平成元年に厚生省（現厚生労働省）が「ふるさと21健康長寿のまちづくり事業」としてスタートさせた施策で、地域で暮らす高齢者が健康で安心し、生きがいを持って暮らせるまちづくりをめざして、地域全体に社会福祉サービスを提供するために、健康・福祉施設を総合的に整備する事業

○公益目的事業：WAC法に基づく施設（疾病予防運動センター・高齢者総合福祉センター・在宅介護サービスセンター・有料老人ホーム）の設置および運営

○その他事業1：疾病予防運動センターのうち60歳未満の利用者（全利用者の3割相当）に該当する部分

○その他事業2：在宅介護サービスセンターのサテライト拠点（奈良事業の奈良店）  
老人保健施設・訪問看護ステーション・ケアプランセンター（奈良事業のみ）

## (1) 奈良事業（厚生労働省WAC認定事業：平成2年10月17日付）

### ① 疾病予防運動センター（WAC第1号施設）【ニッセイ・アーク西大和】

- ・地域会員の新規獲得に向けて定期的な販促（新聞折込・ポスティング）を実施し、退会者を上回る入会者確保に努めました。今後も退会減を維持するため、利用状況の把握と満足度アップに努め、入会後の継続を強化して参ります。
- ・健康増進のため、エデン入居者の利用者は年々増加傾向にあります。入居者のサポートを確実にできるフォロー体制を確立し、入居促進にさらに寄与できる施設づくりを目指しています。

### ② 診療所（WAC第1号施設付置診療所）【ニッセイ聖隷クリニック】

- ・河合町保健事業への協力や、近隣医療機関と連携して地域住民の疾病管理、健康増進等を推進する活動に引き続き取り組みました。
- ・外来は、整形外科の患者ニーズに応えた充実を図り、内科と共に患者数が伸びています。
- ・入院は、計画的な在宅復帰に向けての協力体制の維持や入退院調整の工夫により、病床改修工事で入院制限をかけながらも前年度実績を上回ることができました。
- ・有料老人ホームの協力医療機関として終末期医療における看取りサポートの強化に努め、在宅事業・老健事業とも連携し、医療面でのサポート体制を再構築してサービスの質向上に努めました。

### ③ 高齢者総合福祉センター（WAC第2号施設）【ふれあいプラザ】

- ・今後の中期的な「ふれあいプラザ」の活動目標を見出すべく、内容の更なる充実に取り組んだ結果、課題としていた入居者と地域の参加者のバランスも良い均衡へと改善に向かっていきます。
- ・ここ数年、講座やイベント数・参加者数も増えており、有料老人ホームご入居者や地域にお住まいの方々にとっての当センターの存在感は、より高いものになっています。

### ④ 在宅介護サービスセンター【訪問介護、福祉用具貸与・販売事業、居宅介護支援事業】 （WAC第3号施設）【ニッセイいれい在宅介護サービスセンター・ベル西大和店】

- ・地域包括支援センター、居宅支援事業者との連携やエデンの園へのヘルパー派遣による利用者増、訪問時間増となり、予算を達成することができました。
- ・福祉用具貸与の担当者を増員し、新規利用者獲得や丁寧な相談対応に心掛けたため、介護用品売上の増加となり、予算を達成することができました。
- ・ケアパートナーの新規採用が難しい中、既存スタッフの一層のレベルアップを目指して勉強会やカンファレンスに取り組んでいます。

### ⑤ 訪問看護ステーション【訪問看護事業】（WAC第3号関連施設）【訪問看護ステーション西大和】

- ・利用者数、訪問件数は減少したが、ターミナル期や難病の依頼に着実に対応し、緊急時の利用や時間外訪問の回数が増えました。昨年度からの介護報酬単価の減算、休日加算・交通費の見直しにより事業収益は予算未達ではあるものの、昨年度対比でプラスにすることができました。
- ・質の高いサービスの提供を心がけ、主治医・ケアマネージャー・家族との連携強化に努めたことで、外部居宅支援事業者からの信頼度が増して、ケア依頼が増え新規利用者は増加しています。
- ・県の新人職員や在宅看護実習生の受入も実施し、訪問看護事業の啓発に貢献しました。

### ⑥ ケアプランセンター【居宅介護支援事業】（WAC第3号関連施設）【ニッセイいれいケアプランセンター西大和】

- ・地域包括支援センターとの連携強化により、介護・予防ともにケアプラン作成人数が増加し、特定事業所加算Ⅱ取得継続などにより収益は予算達成しました。
- ・調査担当ケアマネージャーを増員し、医療関係機関との連携強化に努めました。

### ⑦ 有料老人ホーム【特定施設入居者生活介護事業】（WAC第4号施設）【奈良ニッセイエデンの園】

- ・一般居室の新規契約戸数は22戸、退去が22戸（一般居室13戸、介護居室9戸）、介護居室への住替えが10戸ありました。その結果、年度末の介護居室を含めた入居契約戸数は397戸（総戸数408戸に対し入居率97.3%、入居者数502人）となり、引き続き高い入居率を維持することができました。（一般居室356戸/362戸（入居率98.3%）、介護居室41戸/46戸（入居率89.1%））
- ・入居者の平均年齢は82.0歳（男性81.1歳、女性82.3歳）となり、対前年0.1歳増となりました。
- ・総入居者数502人のうち要介護等認定者数（割合）は年度末120人（23.9%）となりました。
- ・健幸生活推進活動では、軽度認知症チェックを行い、早期発見と進行予防のためのウォーキング教室を実施し、参加者同士の繋がりの深まりや運動を継続して行うことの大切さの発見など、入居者の行動変容に繋げることができました。
- ・大型加湿器の導入や増設を行い、入居者・職員一体となって感染症予防対策に取り組んだ結果、集団感染はなく、特に介護居室では感染症の発生がほとんどありませんでした。
- ・入居者、家族の意向に沿いながら、介護居室での看取りの実践に努めました。看取りまでのケアも身元引受人との連携を密に個別のかかわりを行えるようになっています。
- ・開園以来初めて防犯対策訓練を実施し、ハード面と併せて園全体のセキュリティ強化に努めました。

⑧老人保健施設 [ 介護老人保健施設、通所リハビリテーション、短期入所療養介護 ]  
(WAC付帯施設) 【奈良ベテルホーム】

- ・安定した経営基盤を確立する為、地域周辺のケアマネージャー、病院、地域包括支援センター等へ計画的・定期的に渉外・広報活動及び利用者管理の強化を実施しました。
- ・その結果、通所リハビリは大幅に予算超過達成ができましたが、入所・ショートステイは入所者数減と加算項目の獲得ができず、予算未達となりました。
- ・ケア面において、センター方式の活用を推進し、利用者個々の「楽しみ」「喜び」につなげる活動提供を行い、生活意欲の向上に努めました。
- ・施設内のハード整備を行い、利用者・家族等にとって、より良い環境の提供に努めました。
- ・地域との交流では、毎年恒例となっている河合町第3小学校児童との交流を行いました。(職員訪問・児童の来園)。また昨年度に引き続き「河合町しゃきっと教室」へリハビリ職員を12回/3ヶ月派遣し、地域の介護予防事業に貢献しました。

**(2)松戸事業** (厚生労働省WAC認定事業：平成6年12月15日付)

①疾病予防運動センター (WAC第1号施設) 【ニッセイセントラルフィットネスクラブ 松戸】

- ・パーソナルトレーニング (PTC) 専門インストラクターを増員し、新規会員の獲得にもつながり、入会者数が対前年20人 (5.2%) 増と、非常に好調でした。
- ・エデンの園入居者についても、プール及び各種マシンの利用が多く、基礎体力の維持増進に効果が表れています。

②診療所 (WAC第1号付置施設) 【松戸ニッセイ聖隷クリニック】

- ・地域の医療機関と連携し、他院で手術をした入居者を速やかに受け入れる体制整備に努めた結果、入院においては過去最高の患者数となりました。
- ・最新のMRI機器を保有している近隣医療機関と連携し、認知症の早期発見のための「もの忘れドック」を1月から開始し、半年先まで予約が入っている状態です。

③高齢者総合福祉センター (WAC第2号施設) 【ニッセイ松戸アカデミー】

- ・地域交流の増進、高齢者の生きがい増進にかかわるサービスの提供など、従来からの取組みに加え、20周年記念に合わせて様々なイベントを企画し、入居者や地域との新たな結びつきにつなげることができました。
- ・定期的に発行する地域向け広報誌では、園の紹介記事を増やすなど情報発信の強化にも努めました。

④在宅介護サービスセンター [ 訪問介護事業 ] (WAC第3号施設) 【ニッセイエデンヘルパーステーション】

- ・利用者のニーズを的確に把握・対応できる事業所を目標に、専門性の高いスタッフを育成することに努め、職員一人ひとりの課題解決力 (アセスメント力) を高めることができました。
- ・松戸市東部地区高齢者連絡会の専門部会や東部地区地域ケア会議に参加し、事例検討会や地域住民対象の勉強会で講師を務める等、情報連携や地域とのつながりの強化にも努めました。

⑤有料老人ホーム [ 特定施設入居者生活介護事業 ] (WAC第4号施設) 【松戸ニッセイエデンの園】

- ・一般居室の新規契約戸数は14戸、退去が10戸 (一般居室5戸、介護居室5戸)、介護居室への住替えが12戸となりました。その結果、年度末の介護居室を含めた入居契約戸数は347戸 (総戸数352戸) に対し入居率98.6%、入居者数426人) となりました。(一般居室312戸/315戸 (入居率99.0%)、介護居室35戸/37戸 (入居率94.6%))
- ・入居者の平均年齢は84.3歳 (男性83.4歳、女性84.6歳) となり、対前年+0.3歳でした。
- ・総入居者数426人のうち要介護等認定者数 (割合) は、年度末で138人 (32.4%) となりました。
- ・入居時面談や健康相談、健康診断で得た情報を関係職場が共有し、必要時には複数課が連携しながら、適切な時期に適切なサービスを受けられるよう、声掛けを行いました。
- ・介護予防や認知症対応、入居から看取りまでを支えるトータルケアの実践並びにその取り組みについて、周辺地域等にも情報発信するなど、広く啓発していくことを推進しました。

**Ⅱ 調査研究事業 《 公益目的事業 》**

(1) 地元行政機関等と連携した地域住民への高齢期の「健康」「生きがい」「安心」「住まい」の4分野 (以下「4分野」という) に関する情報提供

- ・3月に奈良施設の大ホールを利用して、「骨粗鬆症予防のために～立ち上がれ私の足と腰～」をテーマに、大阪体育大学教授 滝瀬定文氏を講師に、日常生活の中に運動を上手に取り入れることで高齢期の暮らしをより快適なものへとつなげるセミナーを開催しました。
- ・1月に松戸施設の大ホールを利用して、「地域に根差した緩和ケアのあり方と緩和ケア病棟の実際」をテーマに東松戸病院による市民公開講座が開催されました。

(2) WAC事業の展開の中で4分野に関するノウハウ・スキルの研究と成果の関係諸機関への情報提供

- ・「高齢社会における安心なまちづくり調査研究」(松戸市梨香台団地を事例) の成果を受け、松戸市内における「あんしん電話」をツールとした地域見守り体制づくりを政策に位置付けるためのプロセスと見守り体制を支えるコミュニティサロンのモデル化について、検証と考察を行いました。
- ・奈良施設では、関西福祉科学大学と共同で研究を行い、認知症予防に有効と言われている有酸素運動と二重課題を軸にした脳を活性化するプログラム開発の推進を行いました。
- ・奈良施設、松戸施設の各職場内で、高齢者への提供サービス等に関する調査研究及び学会を9・11月に開催、その研究成果について地域住民や関係諸機関へ情報提供を行いました。  
(社会福祉法人 聖隷福祉事業団及び一般財団法人 日本老人福祉財団との共同研究)

(3) 地域住民への4分野に関する情報提供活動の実施

- ・11月の「介護の日」に奈良施設、松戸施設内でイベントを開催し、入居者や近隣にお住まいの高齢者及びその家族に、介護・医療・福祉の知識向上に向けた取り組みを実施しました。
- ・奈良施設、松戸施設各々で「高齢期の暮らし」をテーマに講演会を開催し、高齢期の住まいの選択肢のひとつとして有料老人ホームを核としたまちづくり施設の情報提供に努めました。

**Ⅲ 奨学金助成事業 《 公益目的事業 》**

- ・介護マンパワーの育成を支援する観点から、介護福祉士、理学療法士、作業療法士を目指す専門学校生等への奨学金助成を行いました。
- ・1人当たり助成金は年間24万円 (月2万円)、年間助成対象者は50人です。これまでの累計助成者数は654人となりました。